

## 校長先生の部屋だより

### 哲学ルームだより



この「哲学ルーム」は、生徒、先生の区別なく、共に学校スローガンである「人間を学ぶ」空間です。

今月からまた自由に生徒にテーマを持ってきてもらうことにしました。先月のテーマは少しやりにくそうだったので。すると1年生1人、2年生2人、3年生2人訪ねてきました。始めに入ってきたのは1年生です。

—よく来たね。今日は何の話しようか。

A:前にホームページでロボットを人間と認めるか、というのがありました。それに興味があります。

—それで君はどう思うの？

A:ロボットは人間ではないと思います。

—でも、もしそのロボットが自分はあるあなたと同じ人間で、感情もあれば思考も出来る、と言ったら？

A:それでも人間ではないと思います。

—どうして？

A:人間は新しくアイデアを考え出せるけれど、ロボットには出来ないからです。

—能力の問題だね。じゃあ、もしロボットが新しいアイデアを考え出せるようになったらどうする？現に新しい曲、しかも売れる曲を作ることの出来るロボットはあるみたいだよ。

A:うーん。

—じゃあ、少し質問を変えてみようか。手を機械に変えました。この人ロボット？

A:いいえ。

—足を機械に変えてもロボットじゃないよね。目は？心臓は？

A:ロボットじゃありません。

—じゃあ、最近物忘れがひどくなったから、脳の一部を機械にした、これはどう？

A:うーん。

—全部脳を機械にしたら？

A:うーん。

—機械だから人間じゃないって言うんだらうか。じゃあ、宇宙人がいて、その宇宙人はワニみたいな怖い顔をしている。だけど感情もあるし言葉もしゃべれる。これは人間？

ここで2年生と3年生が入ってくる。まずロボットは人間かを振り返りつつ質問する。

B：ロボットは人間じゃありません。

—どうして？「私は人間です。あなたと同じように悲しみも分かります」って言っているんですよ。

B：人間が生み出したものは人間にはなれないからです。

—じゃあ、さっき A 君にした質問と同じ質問をするね。ワニみたいな顔をした宇宙人が言葉もしゃべるし、感情もある。思考も出来る。これは人間？

C：生物学的には人間ではありません。生物学的にヒトであるものが人間です。

—それじゃあ、そのワニみたいな顔をした宇宙人に人格を認める？人権は？

D：少なくともロボットには認めません。なぜなら人間は死にますが、ロボットは死なないからです。

—じゃあ、そのロボットもいつかは壊れるようにしたらどう？いつかは壊れるんだけど、それがいつかは分からない、そんな風にロボットを作ったら？

あ、もう時間だ。また来てね。

彼らはいったい何に「人間」を見ているのだろう。もっと聴きたいですね。



pota.jp - 4185886